

金融アドバイスが個人の資産分散に与える影響

西出陽子(一橋大学大学院生)

宮本弘之(豊橋技術科学大学)

報告要旨

本稿の目的は、日本における金融アドバイスの利用が、個人の資産分散に与える影響を解明することである。そのために、独自のアンケートデータを用いて、金融アドバイスの利用と資産分散の関係について実証分析を行い、金融アドバイスの利用が資産分散と有意な正の関係にあることを示している。また、内生性の問題を考慮し、性別・年齢・保有金融資産額が類似するグループの平均的なアドバイス利用率を操作変数とした推定を行い、内生性の問題が緩和されることを示した。

一般的には、金融アドバイザーは、顧客のリスク・リターンの最適化や資産、収益の最大化などの目標達成のためのアドバイスを提供することが期待されているが、情報の非対称性などにより、金融アドバイザーと顧客との間にエージェンシー問題が起きることも考えられる。本稿では、このエージェンシー問題を回避するために必要な金融リテラシーの水準とアドバイザーの利用の関係が資産分散に与える影響についての実証分析を行い、金融リテラシーが高く、かつ、金融アドバイスを利用する人は資産分散が促進されることを示している。

